

(一社) 大分測協・愛測協意見交換会 報告書

**(一社) 大分県測量設計コンサルタンツ協会・(一社) 愛知県測量設計業協会の意見交換会
～BCP策定に関する意見交換会～**



平成 28 年 8 月 8 日

一般社団法人 愛知県測量設計業協会 危機管理委員会

目 次

	Page
◆（一社）大分測協・愛測協意見交換会の議事録 -----	1
◆愛測協BCPに関する質問回答表 -----	8
◆新聞社2社掲載記事 -----	10
◆意見交換会配布資料 -----	11
◇意見交換会 次第 -----	11
◇意見交換会 出席者名簿 -----	12
◇H27・H28年度 建コン委／産官学A・I 活動スケジュール -----	13
◇H25年度 産官学勉強会 -----	14
◇（一社）宮城県測量設計業協会 意見交換会まとめ -----	16
◇ワークショップ準備会 -----	18
◇第1回ワークショップ -----	20
◇平成28年度 危機管理委員会 活動スケジュール -----	23
◇BCPに関する説明会 -----	24
◇タイムライン（災害対応に向けての流れ） -----	28
◇愛測協 事業継続計画（第1版 協会BCP）の目次 -----	29
◇安否確認サービス -----	31

(一社) 大分測協・愛測協意見交換会の議事録

主 題：(一社) 大分県測量設計コンサルタンツ協会・(一社) 愛知県測量設計業協会の意見
交換会 ～BCP策定に関する意見交換会～

日 時：平成 28 年 7 月 27 日 (水) 14:00～17:00

場 所：一般社団法人 愛知県測量設計業協会 会議室

参加者：【一般社団法人 大分県測量設計コンサルタンツ協会】 7名

- (敬称略) ①会 長 今山 清 (九州建設コンサルタント (株))
②理 事 (経営委員長) 吉武 隆 (九豊コンサルタント (株))
③理 事 (広報委員長) 吉田 靖 ((株) 日建コンサルタント)
④BCP担当委員 兼田 祐士 ((株) 兼田コンサルタント)
⑤ 同 委員 平川 昌寛 (九建設計 (株))
⑥ 同 委員 渡邊 秀行 ((株) キュウワ)
⑦ 同 委員 波多野 健志 (九州建設コンサルタント (株))

【一般社団法人 愛知県測量設計業協会】 9名

- ①会 長 今村 鐘年 (中部復建 (株))
②副会長 青木 拓生 ((株) 拓工)
③副会長 梶川 洋 ((株) 梶川土木コンサルタント)
④危機管理委員会委員長 岩田 敏彦 (中日本建設コンサルタント (株))
⑤ 同 副委員長 早川 正喜 (早川都市計画 (株))
⑥ 同 副委員長 山本 成竜 ((株) 愛河調査設計)
⑦ 同 委員 濱田 常雄 ((株) 新日)
⑧ 同 委員 岸本 悦典 ((株) アイエスシイ)
⑨事務局 局長 中村 孝雄

【新聞社 (取材)】 2社 2名 / (株) 建通新聞社 / (株) 日刊建設工業新聞社



参加者一同

00. 開催前の雑談

①熊本地震の影響について

観光県大分（湯布院）のダメージ。本震レベルの余震、本震、継続する余震。危機対応内閣として安倍総理も大分入りし、湯布院等の復興支援を約束。観光県大分として昨年アピールビデオ（温泉でシンクロ→シンフロ）を制作したばかり。

②熊本地震を経験する前の本音としての南海トラフ対応（備え）について

ハード対策よりもソフト対策（高台移転など）優先。熊本地震をきっかけに今回のBCP策定意見徴収。現状、災害協定未締結。

③その他

BCPを切り口に地方測協としての立ち位置、課題や問題の意見交換希望。

0. 議事進行役である波多野委員（大分測協）より意見交換会開会の辞

①意見交換会開催のお礼と意見交換会開催趣旨説明。



議事進行 波多野委員

1. 大分測協を代表して 今山会長より挨拶

- ①意見交換会開催、質問回答表のお礼等。
- ②大分測協のBCP取り組みの現状等説明。

2. 愛測協を代表して 今村会長より挨拶

- ①愛測協として、協会BCP策定に向けた良い機会を得た事に対するお礼。



今山会長あいさつ



今村会長あいさつ

3. 愛測協→大分測協の順で各自自己紹介

4. 吉田理事より 大分測協の組織と活動について説明

- ①大分県測量設計コンサルタンツ協会（大分測協）の概要説明。設立 40 周年。
- ②会員 46 社。5 委員会（総務、広報、労務厚生、技術研修、経営）と特別委員会（独禁法、砂防基礎調査）
- ③今山会長より、砂防基礎調査特別委員会の発足と活動内容について説明。



吉田理事による大分測協の説明

5. 岩田危機管理委員長より 愛測協の組織と活動について説明

- ①添付資料、配布資料（H28 年度愛測協会員名簿、南海トラフ巨大地震への対応／宮測協との意見交換会まとめ冊子、方位等）の説明。
- ②配布資料をもとに愛知県測量設計業協会（愛測協）の概要説明。
- ③同、旧建コン委員会、危機管理委員会の活動について説明。
- ④同、宮測協との意見交換会、ワークショップについて説明。
- ⑤同、タイムラインについて詳細説明。



岩田委員長による愛測協タイムラインの説明

5-1. 大分測協より 上述説明した内容について質問など

- ①タイムラインにおける愛知県の支援要請・要望について。
- ②災害事象多々ある中で地震をタイムラインで取り上げた理由について。
大分県特有の活火山災など
- ③協会 B C P の完成度、協会員の意識（モチベーション）について。
- ④ステークホルダー（隣県協、土木研究会など）について。
- ⑤災害協定について。

6. 波多野委員より 会議の進め方及び資料他について説明

- ①配布資料については、前項 5 において岩田危機管理委員長より説明があったため省略。
- ②前項 5 の説明と事前にもらった質問回答表で概ね理解できたため、会員 B C P、協会 B C P、災害模擬訓練の特筆事項について次項で確認。

7. 質問表に沿った質疑回答（前半）

- 【大1】 協会タイムラインについては概ね理解。会員タイムラインと会員BCPについて説明願いたい。
- 【愛1】 ①災害支援9地区の会員支援体制を交えながら、資料No.5(事業継続計画(BCP))にそって説明。会員タイムラインは作成していないが、計画書の中に流れ(フロー)を記載。
②あいちBCPモデルを測量設計にアレンジしている。中小企業庁・内閣府策定版の構成とほぼ同じ。
- 【大2】 愛知県はトヨタ等製造業が盛んなイメージがあるが
- 【愛2-1】 ①あいちBCPモデルは製造業版とサービス業版があり、サービス業版をアレンジ。
- 【愛2-2】 ①目標とする復旧時間は7日以内、タイムラインにおける愛知県からの二次支援要請とリンクしている。愛知県との災害協定を大前提。
- 【大3】 被害想定について、会員に周知する研修等を実施しているか。
- 【愛3】 ①未実施。押し付けでなく意識改革させるのが目的。アンケート調査を複数回実施し、意識改革を狙っているが温度差あり。
- 【大4】 アンケート等で後ろ向きな会員の除籍等は考えていないか。
- 【愛4】 ①考えていない。ただし、災害支援関連で毎年9地区土木事務所にアピールする機会があるため、その中で各会員の「BCP策定・未策定」状況を報告したら、という意見、強制力をもたせたら、という意見あり。今後の課題。
- 【愛5】 熊本地震の時、インフラの復旧期間はどの程度だったか。
- 【大4】 ①大分でも電気インフラは1週間後でも不通。ただし、全国から電源車が訪大し、不安定だが復旧。宿の問題はあった。
②大分測協も2年程前、国と支援体制を結んだが、全国から国関連要員が訪大したため、役割なし。
③国は南海トラフに対するタイムラインを作成していたが、太平洋側(大分～宮崎～鹿児島)地区の後方支援拠点として想定した熊本が今回の熊本地震で大打撃。
④物資や重機は国から十分支援され、主導的に動いた・動けたのは運搬業者等の専門業者であって、我々のような民間(サービス業、コンサルなど)は手も足も出ない・出せない状況であった。これらを経験し、危機管理時における対応指針、BCPの必要性を痛感した。



意見交換会の模様1

- 【愛 6】 ①被害想定に基づくBCP対応策の検討、課題にあたる部分をチェックリスト様式で整理。重要なのは「新耐震設計法による設計か否か」。短期的・長期的視点で整理が必要。②事業継続対応の項がタイムラインにあたる。教育・訓練等を継続し、点検・是正措置・見直しといったPDCAサイクルを回すことが重要。BCM（マネジメント）が重要。



意見交換会の模様 2

- 【大 6-1】 BCPにそって実際に行動・訓練することが重要。

- 【愛 6-2】 ①行動、実行して見直すことが重要。

- 【愛 7】 備蓄品は重要だが、東北地震を経験した宮測協はどうだったか。

- 【愛 7-1】 被害が少なかった市内に集中した会社が社員に食料等を提供。自転車、バイクが有効な移動手段。発電機が必要。トイレの水。ガソリンの補給ルール。現金が重要。

- 【愛 7-2】 BCPを作成して備蓄品の重要性を認識。経営者、トップの意識がポイント。

- 【大 8】 今回の地震は、本震並み余震と本震と2度。これまでの地震と異なった。2回目は気力喪失。2度目の地震で家屋等倒壊しており、このあたりの連続地震に対する考え方が今後の課題。

- 【愛 8-1】 2度目で気力喪失し、回復するのにどれくらいの期間を要したか。

- 【大 8-2】 ①本震以降も大きな余震が継続しているため、現行でも落ち着かない。②心が折れて回復するというより、3回目がかかるのではと疑心暗鬼。

- 【大 8-3】 今回の熊本地震を考えると、タイムラインを作成しても、発災後復旧に向かうはずが再発災となり、時間軸における行動指針をラップさせる必要があり、このあたりが課題となるが、切りがない。

- 【大 8-4】 災害協定・出勤要請は有償でないと。

- 【愛 8-5】 ①愛知県では有償、無償の表現を使っていない。全測連では数件ボランティア。宮測協では1dayがボランティアと聞いている。②愛知県では過去有償清算。

- 【大 8-6】 続く余震や3度目を考えると、経営者として社員を災害支援に出すことに二の足を踏む。

- 【大 8-7】 宿の問題。大分から熊本へ支援する場合、宿泊費もでない。BCP、計画があっても行動に移す場合の課題。

- 【愛 8-8】 ①愛知県でもステークホルダー、支援体制を確立するうえでの課題。②ワークショップ等では、愛知県職員と連携しているため、それをきっかけに相乗効果、発展的に展開できれば。

- 【愛 9】 具体行動時に必要な従業員携帯カードが重要。

8. 質問表に沿った質疑回答（後半）

- 【大 10】協会BCP作成時や具体的に発動された時の役回りは。
- 【愛 10-1】①内閣府防災担当「事業継続ガイドライン」にたどり着き、それに基づき作成。
②BCMを重要視。③災害対策本部の代替え、多重性について検討を始めた段階。
④リーダーシップ、リーダーの裁量。
- 【大 10-2】自社の経営トップ・リーダーシップと協会BCPにおけるリーダーシップの兼ね合いは
- 【愛 10-3】①愛測協としては未検討。宮測協では、建コン、県測協ともに同コンサルであったためうまく機能したと聞いている。②具体運用の細部にわたっては要検討。
③今回の質問回答表には、新たな課題、問題提起も含まれているため有意義である。
- 【大 11】安否確認サービスについてご教示願いたい。
- 【愛 11-1】①資料No.7 (Smart Arrange for BCP) について説明。②会員各社社員の安否確認に利用できるが、協会としては支援体制を把握するためのシステムとして利用。
- 【大 12】災害模擬訓練についてご教示願いたい。
- 【愛 12-1】上述したシステムを利用して、連絡訓練に利用。
- 【愛 12-2】①名測協が音頭をとって、技術研修会（災害時撮影手法やドローン等）や情報伝達等訓練に愛測協も参画。②愛測協と愛知県との情報伝達訓練の必要性、システムの構築検討。③会員企業主体で研修会を実施。愛知県、名古屋市も参加。
- 【大 12-3】九州では官主体で災害査定研修会を実施しているが。
- 【愛 12-4】中部では東海地区4県で持ち回り実施している。
- 【愛 12-5】災害査定技術が継承されていない。愛測協会員では10数社が災害査定経験。
- 【大 12-6】①大分測協会員はほとんどが災害査定を経験済。毎年災害がある。②官側が知識不足で水中測量等で難題を投げかけられる。
- 【愛 12-7】官側の災害・災害査定に対する認識・知識不足。
- 【愛 12-7】今後、大分測協会員を講師とした災害査定研修会を実施しては？
- 【愛 12-8】災害査定手法の基本を確立する必要がある。しかし、想定が難しいため難題。
- 【愛 13】①BCM事務局の創設の必要性。平時の事務局が災害時に移行。
- 【大 14】愛知県としてi-Conへの取り組みは。
- 【愛 14-1】①ドローンは大規模土工が主流で、測量・設計レベルでは精度的にやられていない。②ただし、愛知県として災害時の状況把握の第一報としては活用できる。
- 【大 14-2】景観撮影と三次元データとしての視点で活用できる。
- 【愛 14-3】省力化という視点でi-Conへの取り組みは重要だが、現場レベルでは現状手探り状態。

9, 青木副会長より 活動への助言・連携について

- ①活発な意見交換会へのお礼。
- ②愛測協として、災害査定の現場経験・知識不足も否めないため、逆に助言をいただくとともに、今後も連携を図っていきたい。



青木副会長より活動への助言

10, 吉武理事より 意見交換会へのお礼

- ①意見交換会に対するお礼。
- ②本日の意見交換会を参考に、大分県BCP策定を進めたい。



吉武理事より意見交換会開催のお礼

17:00 意見交換会 終了

以上

(一社) 大分県測量設計コンサルタント協会から (一社) 愛知県測量設計業協会 BCP についての質問に対する回答

作成：危機管理委員会

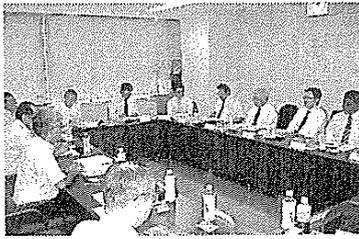
質問事項	回 答
<p>1. 会員 BCP について</p> <p>① BCP の必要性を理解していても策定には至らない全測連会員が多数いらっしゃるかと推察されます。愛知県測協が BCP 策定に踏み切った理由を教えてください。</p> <p>② BCP に関連して、協会員以外の機関や有識者への接触・ヒアリングの実施等がありましたら教えてください。また有益な資料や BCP 事例があればご教示下さい。</p> <p>③ 東日本大震災の教訓は BCP の中にどのように反映されていますか。</p> <p>④ BCP ワーキンググループの構成人数を教えてください。ワーキンググループと 9 地域の各会員との関係について教えてください。</p> <p>⑤ BCP ガイドブックとはどんなものですか。お見せ下さい。</p> <p>⑥ 地区別正副幹事会社への説明会の内容を教えてください。</p> <p>⑦ 地区別勉強会をやってよかったと思う点を教えてください。</p> <p>⑧ BCP 策定中の会員に対する協会の支援体制について教えてください。</p> <p>⑨ BCP は何名で作成していますか。作成期間はどのくらいかかりましたか。</p> <p>⑩ 全会員が BCP を策定されましたか。策定に至っていない会員に対する協会の指導についてのお考えをお聞きしたい。</p> <p>⑪ 実効性のある BCP とするためには、最小限の情報量で分かりやすいものにする必要があると考えます。このような観点から、何かアドバイスを頂きたい。</p> <p>⑫ BCP 発動の大規模災害は、どの程度の災害を想定されていますか。</p> <p>⑬ 災害発生前、災害発生、災害発生直後の一連の動き（タイムライン）が分かる図があればお見せ頂きたい。</p> <p>⑭ 「あいち BCP モデル」のどのような点を参考にされましたか。会員 BCP の実物を拝見させて下さい。</p> <p>⑮ BCP の書類はかなりの分量になると推測されますが、コンパクト版 BCP があればお見せ下さい。</p> <p>⑯ BCP 策定後の運用（PDCA サイクル）はどのようにされていますか。管理者、管理の方法などを教えてください。</p>	<p>① 2011 年 3 月の東日本大震災の経験を南海トラフ巨大地震につなげるため、当協会の建設コンサルタント委員会で平成 25 年から「3.11 から南海トラフ巨大地震へ ～体験を学び、そして地域を守る～」という活動を行ない他測協との意見交換、WS によるタイムラインの概念導入を、また広報委員会では当協会の体質強化のため会員及び協会の BCP 策定を進めてきました。今年度からそれらを危機管理委員会で統合して進める予定です。→資料 1：H27・28 年度 建コン委／産官学 A・I 活動スケジュール</p> <p>② タイムライン、BCP 策定の参考とするために、東日本大震災被災経験のある宮城県測量設計業協会との意見交換会（H28.2.5）を開催しました。また、タイムライン作成にあたり、名古屋工業大学／秀島教授をファシリテータとして、愛知県建設企画課防災担当者と愛測協担当委員会でワークショップを開催しました（H27.12.11、H28.3.2）。→資料 2：宮城県測量設計業協会との意見交換会報告書</p> <p>③ 宮測協との意見交換会で得られた「生の声」は、BCP（タイムライン）、とりわけ発災時（0hr～7day）の行動指針として有益であり、協会 BCP に反映する予定です。</p> <p>④ BCPWG メンバーについては、平成 25 年度に行われた「防災対策に関する意識調査」から、既に BCP を策定している会員で、地区（9 地区）が重複しない 6 名で構成しました。なお、平成 28 年度には、新設された危機管理委員会（BCP 部会 5 名、タイムライン部会 7 名+AD（アドバイザー 1 名）が担当委員会として引き継いでいます。</p> <p>⑤ 中小企業向け事業計画（BCP）策定マニュアル「あいち BCP モデル」（愛知県中小企業金融課）をベースに測量設計業用サンプルとして作成。WG 当初は、中小企業庁「中小企業 BCP 策定運用指針」を参考に案もありました。</p> <p>⑥ 愛知県との災害協定、協会員としての社会的責任等について改めて説明しました。また、協会 BCP の策定を進めるためには、第一に各会員の BCP 策定が前提であること、災害支援体制の強化が重要であることを説明しました。そして、「あいち BCP モデル」をベースとした会員 BCP のサンプルの内容を説明、地区別説明会に向けて正副幹事会社の協力を要請しました。→資料 3：通知文、趣旨説明等</p> <p>⑦ 勉強会を通じて、BCP の重要性や災害支援についての意識向上が図れたことがよかったと思います。しかし、BCP に対して「内容がよくわからない」「業績向上が優先で防災関連の経費がない」などと発言される会員もあります。今後も、あまり前向きでない会員に対し、継続的なフォローアップが必要であると考えます。</p> <p>⑧ 策定中会員への支援は、委員会によるアンケート調査や情報提供、個別対応などのフォローアップを継続的に実施します。</p> <p>⑨ 「あいち BCP モデル」を自社の BCP としてサンプルを作成。経営者が自ら作成したので期間は、概ね 4、5 日程度でした。その後、WG で内容を協議（3 回程度）し、理事会の承認を得ました。</p> <p>⑩ 28 年 2 月のアンケート結果（90 社）…策定済み 57% 策定中を含む 77% 未策定会員については、継続的にヒアリング及び策定支援を実施する予定です。また、より簡略化された「コンパクト版」の活用も検討しています。</p> <p>⑪ PDCA サイクルにより、経営トップがリーダーシップをとり、毎年の災害訓練、連絡訓練の実施、BCP の内容の見直し、改善をしていくことが重要であります（BCM）。また、いわゆる「緊急時行動マニュアル」の策定支援を計画しています。</p> <p>⑫ 想定する大規模災害は、南海トラフ巨大地震です。BCP 発動は震度 6 弱としています。</p> <p>⑬ 資料 4：災害対応に向けての流れ（タイムライン）</p> <p>⑭ 会員に対して、BCP に対する意識向上や無理なく BCP 策定を進めていただくことが重要と考え、「あいち BCP モデル」をベースとしました。具体的な内容については、他の BCP とほとんど相違はありませんが、サンプルを作成、穴埋め式で完成できる形式としました。→資料 5：「あいち BCP モデル」測量設計業 標準版 サンプル</p> <p>⑮ 会員 BCP 用のコンパクト版は作成していません。有事の際には、会員 BCP サンプルの巻末にある従業員携帯カードが有効と思われます。</p> <p>⑯ 会員 BCP については、各会員で対応すべきと考えます。ただし、形骸化することを避けるために、協会の担当委員会（危機管理委員会）が継続的なアンケート調査や情報提供などの工夫が必要であると考えます。</p>

質問事項	回答
<p>2. 協会 BCP について</p> <p>① 協会 BCP 策定に当たった人数を教えてください。</p> <p>② 協会執行部は協会会員を兼ねていて役割が重複しています。協会 BCP では、重複によるロス（機能不全）をなくすためにどのような工夫をされていますか。</p> <p>③ 協会 BCP と会員 BCP とで骨格部分で相違点があれば教えてください。</p> <p>④ 協会 BCP の PDCA サイクルの実施体制の設定について教えてください。</p> <p>⑤ 災害発生前、災害発生、災害発生直後の一連の動き（タイムライン）が分かる図があればお見せして頂きたい。</p> <p>⑥ 協会 BCP の内容（目次など）を教えてください。実物があればお見せ頂きたい。</p> <p>⑦ 協会 BCP について、広域な大規模災害が発生した場合、国（整備局）・県（愛知・岐阜・静岡）・市（名古屋市）の各発注機関から被害調査の要請が同時に来ると思われます。その際の調整についてお聞かせ下さい。</p> <p>⑧ 気象庁の地震速報と連動したメール・インターネットによる情報発信・収集の仕組みを構築しているとのことですが、どのようなものか見せて頂きたい。また、このシステムは外部委託されたものであれば外部委託者名、期間、費用等を教えてください。</p>	<p>① 平成 28 年度に新設された危機管理委員会（BCP 部会 5 名、タイムライン部会 7 名＋AD（アドバイザー 1 名）が担当委員会として策定を進めています。</p> <p>② 役割分担を明確にする必要があると考えます。今後、協会 BCP 策定する上での検討課題です。</p> <p>③ 会員 BCP は、事業復旧、災害支援を遂行できる体制を早期に整えることを前提として、各会員企業の事業継続（存続）が主目的であります。協会 BCP は、災害対策本部、会員企業との指揮連絡や相互支援等の確立、愛知県との災害支援協定の拡充、他測協などとの広域連携体制、BCM の実践等が要旨となります。</p> <p>④ 検討中です。</p> <p>⑤ タイムラインは、発災時から 7～10day 期間の行動の流れであり、緊急時行動マニュアル等のベースとなると考えます。→資料 4：1-⑬</p> <p>⑥ 内閣府防災担当「事業継続ガイドライン」、（一社）日本建設業連合会「建設 BCP ガイドライン」を参考に作成中であります。参考にした理由は、改訂を重ね内容が充実していること、BCM の重要性等、協会 BCP に適していると判断しました。→資料 6：協会 BCP 目次</p> <p>⑦ 愛測協は愛知県建設部との協定による災害査定（道路、河川、砂防等）の役割があります。建コンサルタツ協会中部支部は橋梁関連、名古屋市は名古屋市測量設計業協会（名測協）と協定を締結しています。また、市町村については、愛測協の下部組織である地元組織（研究会など含む）との協定締結の実績もあります。支援要請の調整については、各団体、各企業に委ねられるので考慮していません。派遣人員、派遣先については各企業の判断によるとしています。</p> <p>⑧ 当協会員の関連会社で開発した安否確認サービスを使用しています。詳細については、「安否確認サービス」の通りです。→資料 7：「BCP（事業継続計画）に不可欠な安否確認サービス」</p>
<p>3. 災害模擬訓練</p> <p>① 災害模擬訓練の実施内容について教えてください。</p> <p>② 災害模擬訓練は、会員全員が参加されましたか。社員の参加数を教えてください。また会社社員はどういうかたちで参加されましたか。</p> <p>③ 災害模擬訓練は円滑に行われましたか。予測できない事態が発生していれば教えてください。</p> <p>④ BCP に関して、種々の行政機関や民間会社・団体と連携していれば、連携先や連携の内容を教えてください。</p> <p>⑤ 模擬訓練では災害発生後にどのようなプログラムを実行されましたか。</p> <p>⑥ 次回の模擬訓練で注意すべき点（参加者への周知、BCP 運用面での改善、BCP の更新など）があれば教えてください。</p>	<p>① 愛測協は、前述の安否確認サービスを活用した連絡模擬訓練を行っています。また、担当委員会から名測協との合同訓練にも参加しています。内容は、災害査定の測量方法や査定写真の撮り方などを行っています。</p> <p>② 連絡模擬訓練は全会員が参加しますが、インターネットを活用したものであり、参加としては、各社の災害担当者のみであります。</p> <p>③ 連絡模擬訓練のみであり、毎年大きな問題の発生はありません。</p> <p>④ 協会 BCP 策定中であり、まだ計画段階ですが、災害協定を締結している愛知県をはじめ、中部地区協議会の岐阜県測協・静岡県測協（災害応援協定あり）、その他、近隣の測協、建設コン協会中部支部や名測協、愛知県土木研究会など県内の関連団体との情報共有、相互支援などを確立していく予定であります（タイムライン参照）</p> <p>⑤ 現在は、連絡模擬訓練しか行っていないので、以下の流れで実施しています。 災害発生→災害対策本部設置→各会員に安否確認メールを自動送信（実際には愛知県内で震度 6 弱以上の地震が発生した場合に自動的に配信されます） →各会員が安否確認サイトから派遣可能な技術者などを回答 →各会員の回答結果を集計して各地区の正副幹事会社に報告</p> <p>⑥ 今後は、連絡模擬訓練だけではなく、愛知県との合同開催による災害査定の現地訓練も必要と考えています。また、技術の継承を図るために、災害査定に関する技術研修会の開催も計画しています。</p>

愛測協と大分測協意見交換

BCP策定テーマに

愛知県測量設計業協会（愛測協、今村鐘年会長）は27日、大分県測量設計コンサルタンツ協会（大分測協、今山清会長）と「BCP（事業継続計画）の策定」をテーマに名古屋市中区の愛測協事務所内で意見交換会を開いた。会合では愛測協が会員企業に対する企業BCPの策定支援活動や、協会BCPの検討状況などを説明した。意見交換会は、大分測協がBCPの策定に積極的に取り組んでいる愛測協に呼び掛けて実現した。愛測協は今村会長をはじめ、青木拓生、梶川洋の両副会長、危機管理委員会のメンバーら9人、大分測協は今山会長をはじめ、吉武隆、吉田靖の両理事、BCP担当委員ら7人が出席した。



大分測協の今山会長は「当協会が協会BCPの検討を進めていたところ、愛測協が会員企業に対して企業BCPの策定支援を行った上で、協会BCPの検討を進めていくことになった。その理由を聞くことも、協会BCPの策定をこのような方法で進めているのか、ぜひ勉強させてほしい」と述べた。これに対し、愛測協の今村会長は「会員でBCPを策定済みの企業は現在6〜7割程度。これを企業向けに作成したBCPの策定資料や説明会の講演内容などを解説。協会BCPの検討状況については「まだ3〜4回目」で策定には少し時間がかかる。事前防災行動計画であるタイムラインの考え方に基づき、災害発生前、災害発生直後、災害発生後の数日間などの対応を現在検討している」（若田敏彦危機管理委員長）など述べた。

大分県測量協会と意見交換

愛測協

愛知県測量設計業協会（今村鐘年会長）は7月27日、協会事務局で、大分県測量設計コンサルタンツ協会（今山清会長）と意見交換会を行った。両協会とも事業継続計画（BCP）の策定作業を進めており、今回の意見交換会では、取り組み内容や進捗状況の報告、質疑応答などを盛り込み、進められた。



冒頭、大分県測量設計コンサルタンツ協会の今山会長は「このような機会を設けてもらい大変ありがたい。BCP策定で、

先に進んでいる愛知県測量設計業協会を参考にさせていただきたい」と述べた。続いて、愛知県測量設計業協会の今村会長は「会員各社のBCP、協会のBCP、それぞれを策定していく方向で進めているが、われわれもまだ試行錯誤の状況」とし、「きょうの意見交換会でお互いに情報を共有し、良いものをつくり上げていきたい」とあいさつ。愛知県測量設計業協会は2014年7月に、BCPに取り組むためのワークショップを立ち上げ、会員各社のBCP策定状況は約7割で、現在、会員各社のBCP策定状況は約7割で、16年度中に全社の策定を目指すとしている。

(株)建通新聞社 2016.8.1

平成 28 年 7 月 27 日

(一社) 大分県測量設計コンサルタント協会・(一社) 愛知県測量設計業協会
～ BCP 策定に関する意見交換会 ～

次 第

議事進行：大分測協 波多野委員

- | | | |
|--|-------------|-----------|
| 1. 大分測協 挨拶 | 14:00～14:05 | 今山会長 |
| 2. 愛測協 挨拶 | 14:05～14:10 | 今村会長 |
| 3. 両協会メンバーの自己紹介 | 14:10～14:20 | 各参加者 |
| 4. 大分測協の組織と活動 | 14:20～14:30 | 吉田理事 |
| 5. 愛測協の組織と活動 | 14:30～14:40 | 岩田危機管理委員長 |
| 6. 会議の進め方及び資料他について | 14:40～14:50 | 波多野委員 |
| 7. 質問表に沿った質疑回答
(前半) | 14:50～15:40 | 各参加者 |
| ・・・・・・・・・・・・・・・・・・休憩 (10分)・・・・・・・・・・・・・・・・ | | |
| 8. 質問表に沿った質疑回答
(後半) | 15:50～16:50 | 各参加者 |
| 9. 活動への助言・連携 | 16:50～16:55 | 青木副会長 |
| 10. 意見交換会へのお礼 | 16:55～17:00 | 吉武理事 |

(一社) 大分県測量設計コンサルタント協会・(一社) 愛知県測量設計業協会
 ～ BCP 策定に関する意見交換会 ～

日時：平成 28 年 7 月 27 日 (水) 午後 2 時

場所：(一社) 愛知県測量設計業協会 事務局会議室

(一社) 愛知県測量設計業協会 出席者

No.	役職	氏名	会社名・役職	備考
1	会長	今村 鐘年	中部復建 (株) 代表取締役社長	
2	副会長	青木 拓生	(株) 拓工 代表取締役社長	
3	副会長	梶川 洋	(株) 梶川土木コンサルタント 代表取締役	旧 BCP-WG
4	危機管理委員会 委員長	岩田 敏彦	中日本建設コンサルタント (株) 取締役 常務執行役員	旧建コン委 副委員長、旧 BCP-WG
5	副委員長	早川 正喜	早川都市計画 (株) 代表取締役	旧 BCP-WG
6	副委員長	山本 成竜	(株) 愛河調査設計 取締役副社長	
7	委員	濱田 常雄	(株) 新日 企画部 事業・VE 推進室 室長	旧建コン委 委員、旧 BCP-WG
8	委員	岸本 悦典	(株) アイエススイ 技術部 部長	〃
9	事務局 局長	中村 孝雄		

(一社) 大分県測量設計コンサルタント協会 出席者

No.	役職	氏名	会社名・役職	備考
1	会長	今山 清	九州建設コンサルタント (株) 取締役会長	
2	理事 (経営委員長)	吉武 隆	九豊コンサルタント (株) 代表取締役	
3	理事 (広報委員長)	吉田 靖	(株) 日建コンサルタント 代表取締役	
4	BCP 担当委員	兼田 裕士	(株) 兼田コンサルタント 代表取締役	
5	〃	平川 昌寛	九建設計 (株) 代表取締役	
6	〃	渡邊 秀行	(株) キュウワ 専務取締役	
7	〃	波多野 健志	九州建設コンサルタント (株) 技術管理室	

【実績】

- ・「大災害発生時における対応についての勉強会」
- ・平成25年7月12日(金) 13:30～17:00 KKRホテル名古屋
第1部：東日本大震災の復興支援業務(岩手県)を振り返って
愛知県建設部建設企画課 松浦主査
- 第2部：東日本大震災における業界の対応について
(一社)宮城県測量設計業協会 佐藤委員長
- 第3部：当協会及び建コン委から提案したいこと
(一社)愛知県測量設計業協会 岩田副委員長
- ・参加者：愛知県建設部建設企画課、名古屋市土木事務所、
県土木研究会、愛測協から、計144名
- ・当協会広報誌「方位」に特集掲載、11月発刊予定

【予定/本日】

- ・「災害に強い町づくり 一 地盤の液状化から我が家を守る」
名工大高度防災工学センター長 張教授
- ・平成25年10月15日(火) 15:00～17:00 通信会館

(一社)愛知県測量設計業協会

産・官・学 A・I (H25.7.12)



(一社) 宮城県測量設計業協会 意見交換会^{※1}まとめ

文責 アイエスシイ岸本

平成 28 年 2 月 9 日

※1：(一社) 愛知県測量設計業協会・(一社) 宮城県測量設計業協会の意見交換会
南海トラフ巨大地震への対応／「東日本大震災の災害対応とその後」

- (1) 日時平成 28 年 2 月 5 日 13:30～17:00
- (2) 参加者 愛測協 5 名 宮測協 10 名 (別紙)、取材 4 名 (建通ほか)
- (3) 意見交換会次第 別紙
- (4) 意見交換会のまとめ



参加者一同

- 0, 議事進行役である廣瀬委員長より意見交換会開会の辞。
 - ①事前に頂いた質問回答書のお礼と意見交換会開催趣旨、意見交換会次第説明
 - ②交換会の時間／質問回答数 からポイントを絞る旨 参加者に周知等
- 1, 愛測協を代表して 今村副会長より挨拶。
 - ①交換会開催のお礼と愛測協概要説明
 - ②協会としての南海トラフ巨大地震への取り組み等説明
- 2, 宮測協を代表して 遠藤副会長より挨拶。
 - ①宮測協として 3.11 を風化させない良い機会を得た事に対するお礼と宮測協概要説明
 - ②3.11 当時の協会の動き、復旧・復興等状況説明
- 3, 廣瀬委員長より両協会メンバーの自己紹介については、事前の名刺交換、添付参加者名簿をもって割愛する旨説明。
- 4, 岩田副委員長より、会議の進め方および会議資料等の説明。

①会議は質問回答表のキーワードおよび青字集約質問にそって進める旨周知

②愛測協建コン委員会の産官学A・I活動報告、今回の意見交換会を受けたタイムライン・協会BCPへの展開、タイムライン策定に向けたWS開催等について説明

5-6, 質問回答書の時系列に沿って質疑応答

次頁参照



愛測協質疑風景



宮測協回答風景

7, 宮測協庄子副会長ほか出席理事・委員より当協会活動への助言をいただく。

①災害査定が終わっても、復旧、復興。

②自分たちの限界を認識し、無理なものは無理と言う勇氣と行動。

8, 廣瀬委員長より意見交換会へのお礼と閉会の辞。

①今回の良い機会を得て、今後、姉妹都市ではないが姉妹協会に。

以上

ワークショップ（WS）準備会

開催日：H27.12.11（金） 15:00～17:00

場所：名工大1号館A棟309号室

①WS参加者への確認：



ワークショップの目的、愛知県の対応に対するフェーズの設定、愛測協の応えるべき事項などを確認

②WSの進め方の確認



秀島ファシリテータ／名工大教授によるWSの進め方の説明

黒板及び机の上にあるA0資料：「災害対応に向けての流れ（タイムライン）」

③A班のWS風景



A班：

村上秀隆 愛知県建設部建設企画課
岩田敏彦 中日本建設コンサルタント（株）
濱田常雄 （株）新日
鈴木章夫 中部復建（株）
伊勢野暁彦 （株）カエジノマティックス
早川正喜 早川都市計画（株）

オーディエンス：

青木拓生 （株）拓工
溝口清孝 協和調査設計（株）
安井 睦 若鈴コンサルツ（株）

④ B班のWS風景



B班：

岡田康生 愛知県建設部建設企画課
廣瀬 博 (株)大建コンサルタント
岸本悦典 (株)アイエスイ
多賀真澄 アローコンサルタント(株)
村雲由喜 玉野総合コンサルツ(株)
白木敏和 中日本建設コンサルタント(株)

⑤ A班のWS結果報告



早川委員によるA班のWS結果の報告

ポストイットに書かれた意見を発表しており、その結果は「課題リスト」に整理

⑥ B班のWS結果報告



岸本委員によるB班のWS結果の報告

⑦ 講評

- ・シナリオを一つに絞っても、災害を時間軸に沿ってイメージしステークホルダー（利害関係者）との調整事項を列挙するのに時間が足りなかった
- ・参加者の災害に対する意識アップには役立つとの意見が多く、好評であった

第1回ワークショップ（WS） 報告

開催日：H28.3.2（水） 14:30～17:00

場所：名工大1号館A棟309号室

①WS参加者への確認：



岩田副委員長より、進め方等を説明

- ・ワークショップの目的および実施方法などを確認
- ・特に、今回はファシリテータを各班から1名ずつ選出
- ・班を2つに分け、地区制・支部制を前提に課題・対応を協議
- ・A班：支部制（現在の地区別災害体制を3つ／尾張・西三河・東三河に統合）
- ・B班：地区制（現体制）

②前回WS準備会の結果報告



同副委員長より、前回タイムライン及び課題表の結果を確認

- ・黒板及び机の上にあるA0版資料：「災害対応に向けての流れ（タイムライン）」と「課題表」を説明

③宮測協／ヒアリング（意見交換会）結果の報告



廣瀬委員長より、H28.2.5に宮測協と実施した意見交換会の概要結果を説明

- ・意見交換会まとめの資料をもとに、概要を説明

④宮測協／ヒアリング（意見交換会）議事録の質疑応答



濱田・岸本委員による議事録概要の説明
と質疑応答

⑤A班のWS風景

（オーディエンスのメンバーもWSに参加頂き、活発な協議に）



A班：

村上秀隆 愛知県建設部建設企画課
岩田敏彦 中日本建設コンサルタント（株）
濱田常雄 （株）新日
鈴木章夫 中部復建（株）
伊勢野暁彦 （株）カエジノマティックス
早川正喜 早川都市計画（株）
奥田雄司 （株）大増コンサルタント
今村鐘年 中部復建（株）
舟橋博文 （株）葵エンジニアリング

⑥B班のWS風景



B班：

岡田康生 愛知県建設部建設企画課
廣瀬 博 （株）大建コンサルタント
岸本悦典 （株）アイエスアイ
多賀真澄 アローコンサルタント（株）
村雲由喜 玉野総合コンサルタント（株）
白木敏和 中日本建設コンサルタント（株）
安井 睦 若鈴コンサルタント（株）
青木拓生 （株）拓工
溝口清孝 協和調査設計（株）
浅井俊治 （株）大増コンサルタント

⑦A班のWS結果報告



早川委員によるA班のWS結果の報告
・支部制採用を想定したタイムラインを協議し、意見を発表

⑧B班のWS結果報告



岸本委員によるB班のWS結果の報告と
白木ファシリテータによる補足説明
・現在の地区制をベースにしたタイムラインを協議し、課題を整理

⑨秀島教授による講評と今後のアドバイス



以下の指摘を頂いた
・WSでは課題の提示だけでなく対応を確定していく
・協会対応は別途一部メンバーで決めてはどうか
・指揮系統を明確にする
・他団体との協定を明確にする

今後の方針

・委員会の一部メンバーでタイムライン

(案)を作成する

・結果を委員会で協議、理事会に提示する方向で進める

活動テーマ	危機管理委員会 活動スケジュール												
活動の体制	危機管理体制の整備とBCPの作成 ～動きながら考える～												
	①災害等緊急体制について【タイムライン部会】												
	i) 体制整備												
	<ul style="list-style-type: none"> ・危機の把握と優先度 : 地震、豪雨・・・テロ ・タイムラインとBCPの周知 : WSの開催 (第2回) ・体制の検討 												
	ii) 技術支援												
	<ul style="list-style-type: none"> ・測量委、建コン委による災害査定の手導および危機管理委による支援スケジュール立案と運営 												
	②協会・会員BCPについて【BCP部会】												
	<ul style="list-style-type: none"> i) 会員のBCPの深度化支援 ・会員BCPの公表率の調査 ・公表に至る課題 ・会員BCP作成支援：具体的シナリオに沿った対応調査 												
	ii) 協会BCPの作成												
スケジュール	スケジュール												
活動項目	5/18 第2回理事会												
理事会	H28/4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月	H28/4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月	2・3月
危機管理委員会	4/22 第1回理事会5/18 第2回理事会7/28 第3回理事会	6/25 第4回理事会6/29 第5回理事会7/14 第6回理事会7/24 意見交換会	7/14 第7回理事会										
①タイムライン部会	7/14 第10回部会												
i) 体制整備	↑												
危機の把握	↑												
タイムライン・BCPの周知	↑ 9/20 第2回 WS												
体制の検討	↑												
災害訓練	○												
ii) 技術支援	↑												
災害査定	↑												
②BCP部会	7/7 第1回部会												
i) 会員BCPの深度化	↑												
公表率の調査	↑												
課題の抽出	↑												
会員BCP作成支援	↑												
ii) 協会BCP作成	↑												
骨子	↑												
素案	↑												
意見の聴取	↑												
愛知県/建設企画課	6/9 企画課挨拶 7/27 am: 建設企画												
名工大/秀島教授	○ 8/2pm: 海部建設												
	○ 7/21, 22												

平成27年3月26日

災害協力体制
正副幹事会社 各位(一社)愛知県測量設計業協会
会長 二村 貴和
BCP ワーキンググループ
リーダー 早川正喜

BCP（事業継続計画）に関する説明会の開催について

拝啓 陽春の候 益々ご清栄の段お慶び申し上げます。
日頃は、当協会事業にご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、2011年3月に発生した東日本大震災を教訓として、我々の地域でも南海トラフ巨大地震の発生想定による災害対策が進められています。また、企業経営を取り巻く環境には様々な脅威があり、想定外の震災を経験した我々は、日々の備えの重要性を認識しなければなりません。今後、企業にとって予期せぬ事態が発生した場合でも、事業の早期復旧をしなければ、その存続も危ぶまれます。非常時、緊急時こそ明確な行動指針が必要であり、また平常時にその準備や訓練をすることが重要となってきます。それが事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）です。

そして我々は、愛知県測量設計業協会に属する会員企業としての社会的責任があり、愛知県と平成23年に締結した災害協定に基づく災害復旧支援の役割があります。そこで、愛知県測量設計業協会として、BCP策定に関するワーキンググループを立ち上げ、測量設計業のBCPモデルを作成し、全会員を対象としたBCP策定を推進する活動を行っております。

この度、そのBCPモデルが概ね整いましたので、災害支援体制の地区別正副幹事会社を対象に説明会を開催する運びとなりました。つきましては、下記のとおり、開催日時、場所を取り決めましたので、お忙しい中、誠に恐縮ではございますが、極力ご出席のほどよろしくお願い申し上げます。

出欠のご連絡は、当協会へ FAX_052-953-5020、mail jimukyoku@aisokkyo.or.jp でご返送下さいますようお願い致します。

尚、今回のBCP策定に関する説明、今後の予定等を別紙に添付いたしましたのでご一読ください。

記

日 時	平成27年 4月21日（火） 13:30～17:00（予定）
場 所	(一社)愛知県測量設計業協会 会議室 名古屋市中区丸の内3丁目19番30号 TEL 052-953-5021

※出席される方は、BCP策定の権限のある方（経営者又はその代理、もしくは管理責任者）の選任をお願いします。

以上

BCP 策定に関する説明会出欠通知

出席・欠席

社 名

出席者名

4月14日までに
FAX (052) 953-5020
mail jimukyoku@aisokkyo.or.jp 等でご返送ください。

連絡事項

『BCP（事業継続計画）策定に関する説明』

1. BCP（事業継続計画）策定の背景および目的

2011年3月に発生した東日本大震災を教訓として、我々の地域でも南海トラフ巨大地震の発生想定による災害対策が進められています。また、企業経営を取り巻く環境には様々な脅威があり、想定外の震災を経験した我々は、日々の備えの重要性を認識しなければなりません。今後、企業にとって予期せぬ事態が発生した場合でも、事業の早期復旧をしなければ、その存続も危ぶまれます。非常時、緊急時こそ明確な行動指針が必要であり、また平常時にその準備や訓練をすることが重要となってきます。それが事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）です。

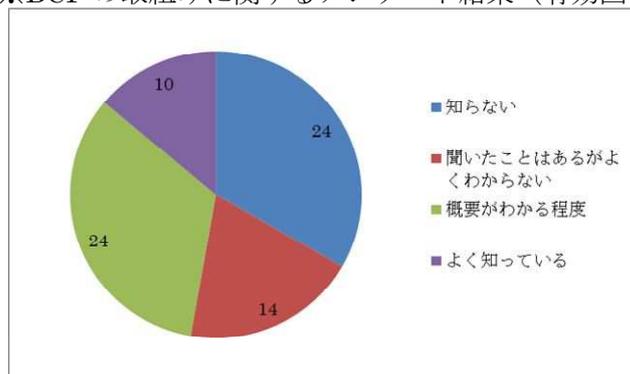
そして我々は、愛知県測量設計業協会に属する会員企業としての社会的責任があり、愛知県と平成23年に締結した災害協定に基づく災害復旧支援の役割があります。そこで、愛知県測量設計業協会として、BCP策定に関するワーキンググループを立ち上げ、測量設計業のBCPモデルを作成し、全会員を対象としたBCP策定を推進する活動を行っております。

全会員のBCP策定を実施し、次の段階で（一社）愛知県測量設計業協会自体のBCP策定に着手する予定です。協会BCPの策定を進める過程で、災害支援体制の見直しや会員相互の支援体制の確立を目指します。

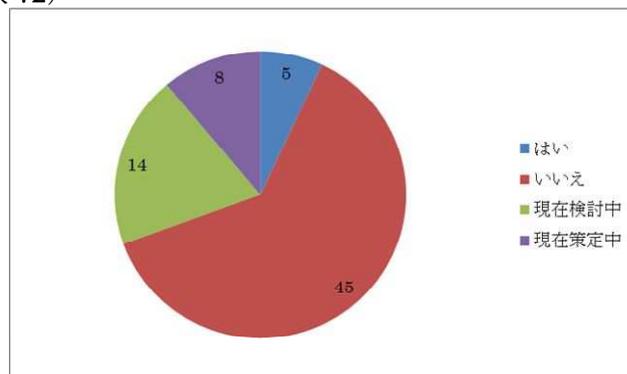
2. BCP（事業継続計画）策定の取組み

平成25年12月	防災対策に関するアンケートの実施
平成26年7月	第1回BCPワーキンググループ打合せ
平成26年8月	第2回BCPワーキンググループ打合せ
平成26年9月	第3回BCPワーキンググループ打合せ
平成26年11月	第4回BCPワーキンググループ打合せ
平成26年12月	第6回理事会上程
平成27年3月	第5回BCPワーキンググループ打合せ
平成27年3月	第8回理事会承認

※BCPの取組みに関するアンケート結果（有効回答数72）



【BCPをご存知ですか？】



【貴社では、BCPを策定していますか？】

3. BCP（事業継続計画）の概要（目次）

今回、策定する BCP モデルの概要は以下のとおりです。

項目	ページ	[様式集]	
検討の流れ			
1. BCP基本方針の決定	1	【様式①】BCP対応拠点一覧 17	
2. 計画	2. 1 対象とする災害	2	【様式②】避難経路図・避難計画 18
	2. 2 重要業務の決定	2	【様式③】備蓄品リスト 19
	2. 3 目標とする復旧時間の決定	3	【様式④】二次災害防止用チェックリスト 20
	2. 4 重要業務が受ける被害の想定	4	【様式⑤】従業員連絡先リスト 21
	2.4.1 地震危険度の確認（前提条件）	4	【様式⑥】安否確認チェックシート 22
	2.4.2 自社に想定される被害	5	【様式⑦】地域貢献策一覧 23
	2.4.3 財務面での被害想定	7	【様式⑧-1】被災状況調査シート（自社用） 24
	2. 5 被害想定に基づくBCP対応策の検討	8	【様式⑧-2】被災状況調査シート（取引先用） 25
	STEP1 重要な経営資源の抽出	8	【様式⑨】主要連絡先リスト 26
	STEP2 抽出した経営資源の評価	9	【様式⑩】連携対応策一覧 27
	STEP3 BCP対応策の実施時期の決定	11	【様式⑪】重要な情報のバックアップ 28
	STEP4 長期的なBCP対応策の実施計画立案	13	【様式⑫】従業員携帯カード 29
	3. 事業継続対応	14	
4. 教育・訓練計画	15		
5. 点検・是正措置・見直し	16		

4. 留意事項

我々測量・設計業に携わるものとしては、主に官公庁の顧客からの要請や要望への対応が重要であり、他の業種（サービス業や工場）とは全く異なる役割を担うこととなります。災害発生直後、応急対応時、復旧対応時、長期の復興対応時といった時間経過によって、その役割が異なります。しかし今回は、愛知県との災害協定を主軸に捉えた標準の BCP モデルになっています。時間経過によって対応が必要な場合には、各社として対策を立ててください。

BCPは、災害時の最悪の事態を想定して検討する必要があります。発生時間が夜間・早朝、休日の場合には、会社の被害状況を確認するだけでも困難なことが考えられます。我々の事業を再開・継続させるには、まず会員各社の事業所が機能することが重要です。そのために事前に災害対策を検討し、被害を少なくする対応を実施してください。次に、災害発生後に事業を再開させる計画を立ててください。そして最も重要なのは、策定された BCP を会員各社の社員全員が理解し、災害時に行動すべきことが実行できるように教育・訓練を実施することです。

また、一般に BCP の想定する危機は、地震以外にも風水害や伝染病等がありますが、今回は、南海トラフ巨大地震に限定しています。しかし、そのほかの想定する危機にも、適切な改良で対応が可能であると思われるのでご理解ください。

5. 今後の予定

平成 27 年 4 月	地区別正副幹事会社説明会
平成 27 年 5 月	地区別会員説明会（8 地区）
平成 27 年 6 月末	会員 BCP 策定期限
平成 27 年 8 月末	状況ヒヤリング・フォローアップ
平成 27 年 9 月	協会 BCP 策定着手
平成 28 年 3 月	協会 BCP 策定

6. 参考情報

BCP 策定に関する参考情報は以下のとおりです。

- ・中小企業向け事業継続計画（BCP）策定マニュアル「あいち BCP モデル」
<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/bcpmodel.html>
- ・愛知県地域防災計画 <http://www.pref.aichi.jp/bousai/boukei/boukei.htm>
- ・第 3 次あいち地震対策アクションプラン <http://www.pref.aichi.jp/0000078460.html>
- ・平成 23 年度～25 年度 愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果
<http://www.pref.aichi.jp/0000072625.html>

●災害対応に向けての流れ(タイムライン)

発生状況	時間	社員及び家族		会社		愛知協 事務局(中村 孝雄) TEL:052-953-5021 FAX:052-953-5020 mail:jimukyoku@aisokkyo.or.jp	愛知協 地区幹事会社	建設部建設企画課(岡田 康生) TEL:052-954-6509 FAX:052-961-7028 mail:kensetsu-kikaku@pref.aichi.lg.jp	他県測協	建コン協中部支部 事務局(吉田 圭一) TEL:052-265-5738 FAX:052-265-5739 mail:info@ccainet.org	愛知県土木研究会 事務局(小島 久直) TEL:052-931-6911 FAX:052-931-6913 mail:aichidobokukenyukai@smile.ocn.ne.jp
		社員	家族	社員	会社						
事前準備		<p>条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬(1/17(月)) 早朝勤務時間前 5:46am ・南海トラフ巨大地震 M9.0 最大震度7 (震度6以上:10県153市町村) 		<p>社員は各自、家族の安全確認</p>							
南海トラフ巨大地震の発生 冬(1/17)5:46:52	0hr	<p>社員、家族の安全確認</p>		<p>社員の安全確認</p>							
	3hr	<p>・備蓄品の供出</p> <p>・社員又は特定理事専任と協定締結</p> <p>・被災時行動の流れの確認(BOP参照)</p> <p>・災害情報の収集・整理(BOP様式参照)</p> <p>・本部への情報提供</p> <p>・支援自治体の確認(BOPの優先順位付け)</p>		<p>・愛知協事務局被災状況確認(当該地区の主たる会社の情報収集)</p> <p>・情報集約の確認(会社や幹事会社へ本部)</p>							
	1day	<p>・人命救助・緊急復旧対応の確認</p> <p>・通勤ルートの安全確認</p>		<p>・初動体制の確認</p> <p>・社員の出勤・勤務時間の確認</p> <p>会社リストアップ準備(後片付け)</p>							
	2day	<p>・安全確認後の行動確認</p>		<p>・情報収集(協会BOP/方法・様式参照)</p> <p>・指示・連絡の確認</p> <p>・発災日より日ごと別に委員と手段の確保(to 県災対本部、委員)</p>							
	3day	<p>(以上は、各社BOPに準拠)</p>		<p>・1次支援体制の確認</p> <p>・交通手段の確認</p> <p>・1次支援※1</p>							
緊急輸送ルートの確保 電話応急復旧期間											
電気インフラ停止期間	7day										
	10day										
ガスインフラ停止期間	30day										

注1:オレンジ色文字:WSで開示された課題
注2:黒色文字:東日本大震災報告書に示された実態及び団体の意向

※1 1次支援:県の応急概算工
事費提出までの支援
※2 2次支援:県の復旧工費
提出までの支援
※3 災害査定:一般には発災
後2ヶ月で査定完了がルール

・福井県測協始め県測協
による応援
(協会BOP参照)

・県より本格的支援要請

・10day以内:県→国
概算復旧費用報告

・県より本格的支援要請

・30day以内:修正復旧費用報告

事業継続計画

第1版

(協会BCP)

一般社団法人 愛知県測量設計業協会

目 次

1. 方針の策定	1
1.1 基本方針の策定	1
1.2 事業継続マネジメント（BCM）実施体制の構築	1
2. 事業継続計画	3
2.1 検討対象とする災害の特定	3
2.2 影響度の評価	3
2.2.1 停止期間と対応力の想定	3
2.2.2 重要業務の決定	3
2.2.3 目標時間の設定	4
2.3 重要業務が受ける被害の想定	4
2.4 重要な要素の抽出	5
2.5 事業継続計画の策定	6
2.5.1 生命の安全確保と安否確認（会員 BCP）	6
2.5.2 指揮命令システムの明確化	9
2.5.3 災害対策本部の機能確保	9
2.5.4 対外的な情報発信および情報共有	10
2.5.5 情報システムのバックアップ	11
2.5.6 会員会社との連携	12
2.5.7 災害査定支援への対応	13
2.5.8 通常業務への対応	14
2.6 事業継続と共に求められるもの	15
2.6.1 協会事務所および設備の災害被害軽減	15
2.6.2 2次災害の防止	16
2.6.3 地域との協調・地域貢献	16
2.6.4 共助・相互扶助	17
2.6.5 その他考慮すべき項目	17
3. 実施および運用	19
3.1 事業継続計画に従った対応の実施	19
3.2 文書の作成	19
3.2.2 チェックリストの作成	20
3.3 財務的手当	20
3.4 災害時のリーダーシップの重要性	21
4. 教育訓練の実施	22
5. 点検及び是正措置	23
6. 見直し・改善	24

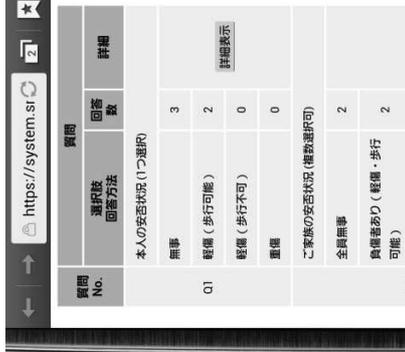
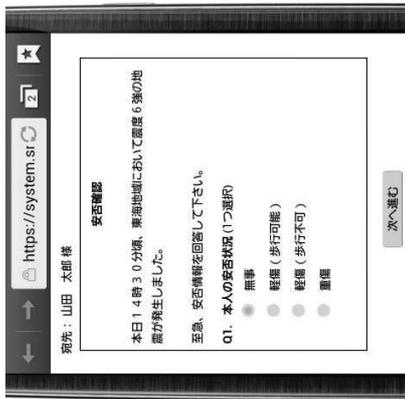
BCP（事業継続計画）に必要不可欠な安否確認サービス

Smart Arrange for BCP

株式会社 アPLICORE

Smart Arrange for BCPとは？

Smart Arrange for BCP（スマートアレンジ・フォー・ビーシーピー）は、災害などの緊急事態発生時に社員の方や社員のご家族の安否状況を素早く確認できるサービスです。



社員や家族にメールが届きます。

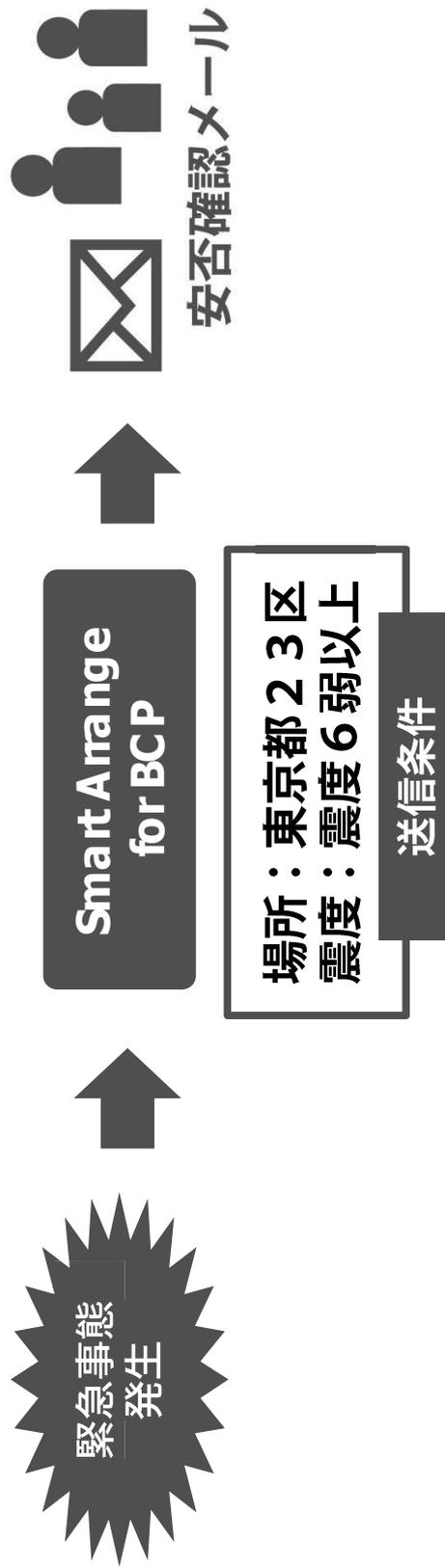
アンケート形式で安否状況を回答します。

安否状況を確認します。

地震速報をもとに安否確認を自動で行います

気象庁からの地震速報とあらかじめ設定した条件をもとに、安否確認のメールを自動送信します。

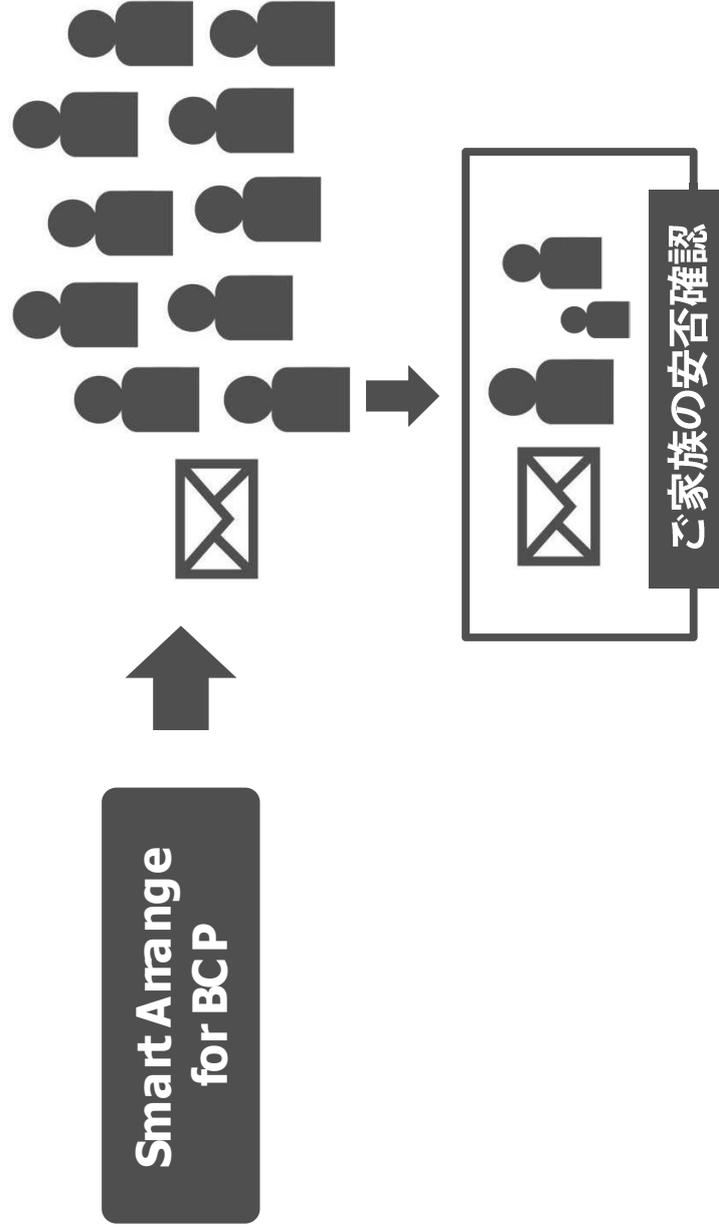
手動送信もできますので、定期的な災害訓練にも活用することができます。



余震などによるメールの乱発も防ぎます。

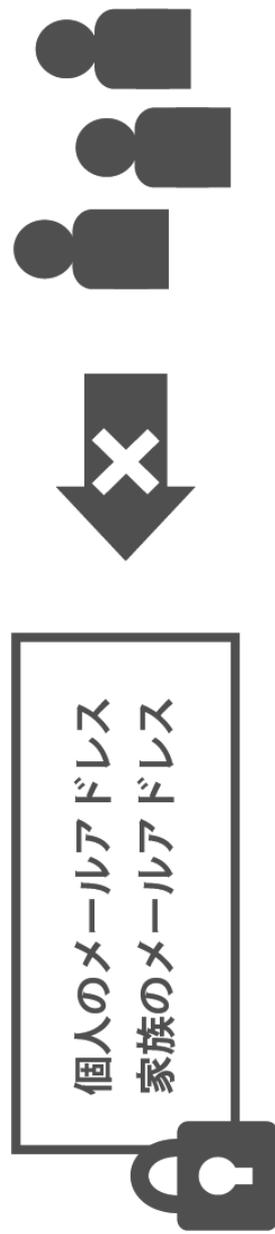
社員のご家族の安否も確認できます

社員の方にとってはご家族の安否確認が最優先です。
社員の方に安心して仕事に復帰してもらうために、ご家族の安否確認も会社としてケアする必要があります。



個人情報もしっかり守ります

個人で所有している携帯電話のメールアドレスやご家族のメールアドレスは、社員の方が個別に管理できますので、会社や他の社員の皆さまに個人情報公開されることはありません。



安否確認状況の閲覧者を自由に設定できます

安否確認サービス
Smart Arrange for BCP

安否確認タスクの作成

基本情報の入力 > タイトル・案内文の入力 > 送信先の設定 > 公開対象者の設定 > 内容確認

安否確認の回答状況・結果を閲覧できる人を指定して下さい。

安否確認送信先と同じにする 送信者(作成者)のみにする

■安否確認結果の公開対象者(メンバー)
グループ単位で追加 個別に追加 全員追加 すべて削除

公開対象メンバー

石田	削除	鈴木 一郎	削除	山田 太郎	削除
----	----	-------	----	-------	----

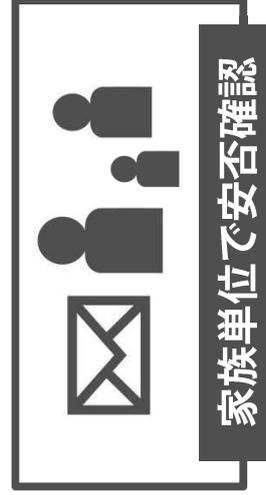
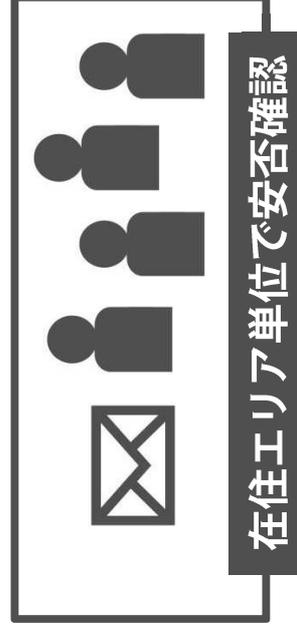
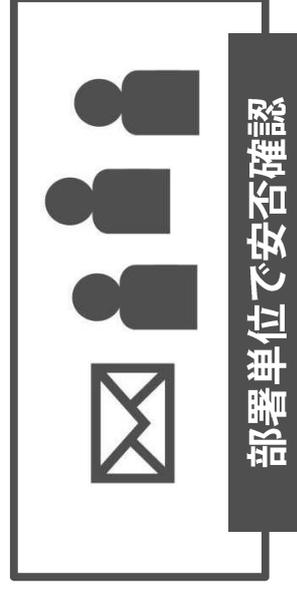
計 3 名

運用に合わせて自由に安否確認の設定ができます

すべての安否確認はタスクで管理されます。御社の運用に合わせて、さまざまな安否確認タスクを登録することができます。

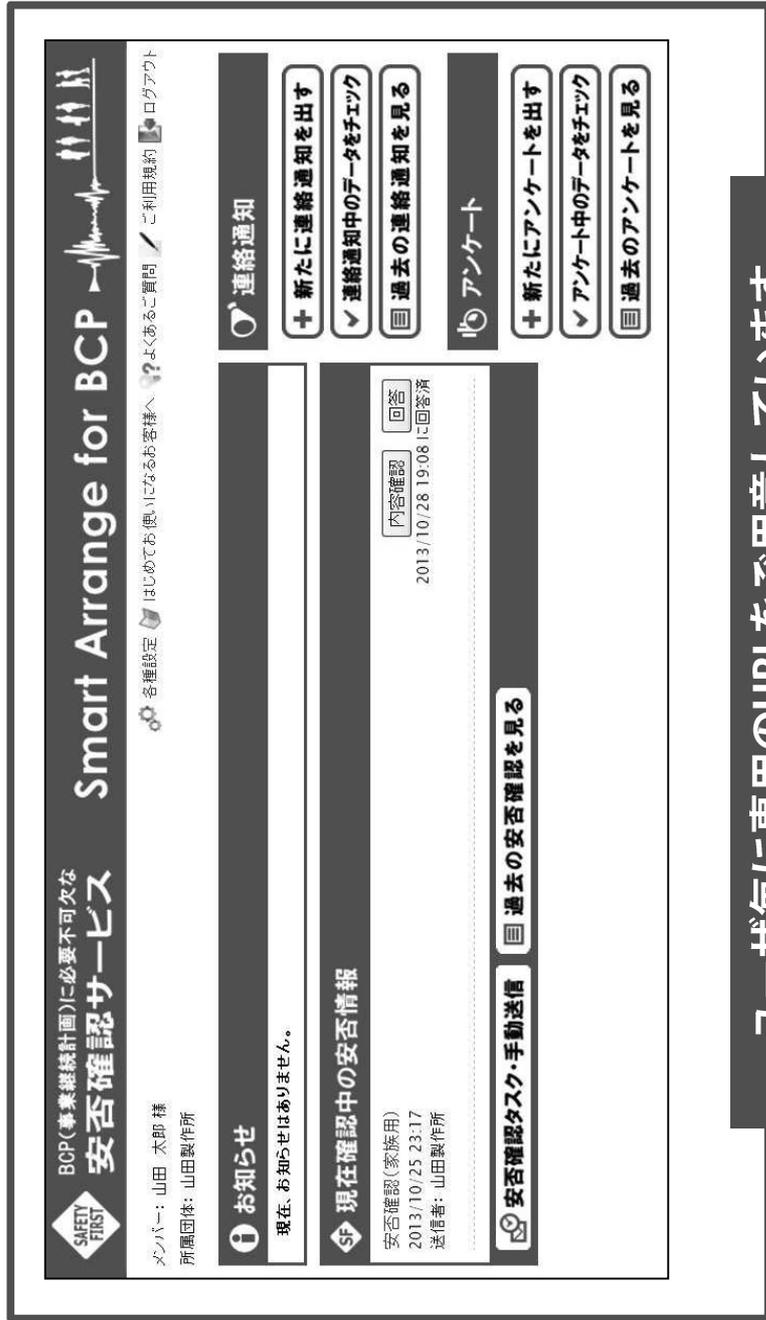
安否確認タスクの設定

- ・ 送信先
- ・ 送信条件
(エリア、震度)
- ・ 安否確認の質問内容



専用URLからいつでも安否確認ができます

ユーザ毎に専用のURLをご用意していますので、いつでもどこでも安否確認の回答や安否状況の確認ができます。
専用URLをブックマークに登録しておけば、万が一、メールが届かない場合でも安否確認サービスを利用することができます。



ユーザ毎に専用のURLをご用意しています

災害に強い堅牢性に優れたデータセンター

震度6強の地震にも
耐える制震・耐震・
免震構造

冗長構成の無停電
電源装置 (UPS)

非常用エンジン
発電装置

24時間365日の
有人監視体制

防火壁構造
高感度火災予兆
検知システム